

架空言語 vqàRK 設定解説 第 0.1 版

2013.4/11～ by @bd_gfngfn

文字

以下のラテン文字翻字を行ないます（本当は独自の文字体系 kaZtGiq があります）。

q [χ][ɣ] ?	b [b]	p [p]	t [t]	E [œ]	R [r]	M [m] ?
D [d]	a [a]	h [h][ɦ]	S [ʃ] ?	u [u][w]	i [i][j][i]	s [s]
e [e]	T [tʰ]	o [o]	k [k]	F [ɸ] ?	c [ç]	v [v]
f [f]	G [ŋ]	n [n]	m [m]	g [g]	& [ð]	x [ʃ]
r [r]	U [u]	d [d]	K [kʰ][ʔ] ?	N (鼻音化)	\$ [θ]	J [dʒ]
C [ʧ]	j [ʒ]	z [z]	Z [ʦ]	P [B 無声]		

国際音声記号は近似的です。以下に感覚的説明を添えます。

q: 仏 riz の r をやや強く発音します。有声無声が後続の音に依存します。例: qòbo (父)

b: 日本語のバ行の子音とほぼ同じ。

p: 日本語のパ行の子音とほぼ同じ。例: pxtak (人)

t: 日本語のタ行の子音とほぼ同じ。例: tpikbR (大洋)

E: 仏 œuf の œu とほぼ同じ。

R: 露 p とほぼ同じ。

M: 英語の “hmm...” の母音。

D: 日本語のダの子音に似ていますが、歯の裏側ではなく硬口蓋に舌を押しつけて発音します。しばしば英 land の l に似ます。

a: 日「あし」のアとほぼ同じ。

h: 英 hello の h とほぼ同じ。有声無声が後続の音に依存します。

S: 日本語のシの子音とほぼ同じ。例: sùSa (自分)

u: 英 book の oo とほぼ同じで、口を円めて発音します。ただし uN のように鼻音化するときはかなり異なる音になり、o の音（後舌）を u の口（円唇）で発音します。後続が母音の場合は子音化し、日本語のワの子音とほぼ同じ音をとります。

i: 日本語の「いす」のイとほぼ同じ。

s: 日本語のサの子音とほぼ同じ。例: stpaD (美しい)

e: 仏 café の é とほぼ同じ。

T: 敢えて仮名で書くと「テャ」の子音という雰囲気ですが、歯の裏側ではなく硬口蓋に舌を押しつけ、強く息を吐いて発音します。

o: 仏 eau とほぼ同じで、口を円めて発音します。

k: 日本語のカ行の子音とほぼ同じ。

F: 日本語のフの子音を、やや口を開き気味に発音します。母音が後続する場合は声門でも摩擦を行ない、h に近くなります。例えば Fa はしばしば「ホァ」のように聞こえます。

c: 日本語のヒの子音や、独 nicht の ch とほぼ同じ。

v: 英 void の v を、上顎の歯を下唇にやや弱くめり込ませて発音します。

f: 英 fun の f を、上顎の歯を下唇にやや強くめり込ませて発音します。

G: 英 king の ng や、日「謹賀」のガの子音とほぼ同じ。

n: 日本語のナの子音とほぼ同じ。例: nuNS (つくる)
m: 日本語のマ行の子音とほぼ同じ。
g: 英 go の g とほぼ同じ。例: guSdi (都市)
&: 英 that の th とほぼ同じ。
x: 声門閉鎖音。
r: 舌を硬口蓋に当たらない程度に添え、舌と硬口蓋の間に息を通します。
U: 口を左右に引き、強くウと発音します。
d: 日本語のダの子音とほぼ同じ。
K: 日本語のカ行の子音と似ていますが、息を強く吐いて発音します。
N: 必ず母音に後続し、鼻母音化します。口を開けたままを発音するとおおよそこの音。
\$: 英 three の th とほぼ同じ。
J: C の有声音。
C: 日本語のチャの子音とほぼ同じ。
j: S の有声音。
z: 日本語のザの子音とほぼ同じ。
Z: 日本語のツの子音とほぼ同じ。
P: 日本語のパ行の子音に近い音を、唇をふるえさせて発音します。

語順

文は原則として、前動詞→目的語→後動詞→主語、の順序をとります。動詞は前動詞が 3 種類、後動詞が 5 種類あり、その組み合わせで動詞を形成します。修飾・被修飾の関係は、修飾語が接中辞(分割形)となって被修飾語を被分割形にし、割り込むことにより表現します。

前動詞と後動詞

前動詞と後動詞は基本的にペアで用いられ、いずれか片方では意味を成しません。前動詞は基本、派生、対立の 3 種類があり、意味傾向を決定します。人称、相、アスペクト(様相)によって活用します。後動詞は創出、奪取、思考、保持、移動の 5 種類があり、主語・目的語・その他諸要素の間関係を明示します。こちらは人称、性、位、テンス(時制)によって活用します。

人称

まず人称には 1 人称、2 人称、3 人称、一般称、聖称があります。一般称とは任意の人物や事物が普遍的にあてはまる人称です。フランス語で on という代名詞で表現されるもの一部によく似ています。聖称とは 2 人称や 3 人称に畏敬の念を加えたものです。

また、**相対人称**と**一時的絶対人称**の区別があります。前者は発話者(表記者)が 1 人称、発話対象者(読者)が 2 人称、その他が 3 人称や一般称をとる形式です(インド=ヨーロッパ語族でよくみられるような分類です)。後者の一時的絶対人称は、聞き手に対して一方的に述べる発話あるいはやや改まった書き言葉として使われ、文章中の登場順序が 1 番目の人物・事物を 1 人称、2 番目を 2 人称、3 番目以降を 3 人称で表します。人物が多くなってきた場合などは人称を改め、接続詞 qòP を文末に付けることでその文以降の人称が再設定されたことを明示します。

性と位

名詞には性があり、**活性**、**機性**、**界性**に分けられます。多くの語は活性と機性であり、だいたい活性が生物、機性が無生物という具合に分けられています。界性は時間や場所などが分類されます。これは活性、機性と異なり曲用変化を持たず、文中では主語にしかありません。また、後動詞の活用は主語の性に依存します。活性と界性は共通ですが、機性は別の活用をします。

後動詞の活用には性の他に位という概念があり、これは**上位**と**下位**に分かれます。日常会話ではどの主語に対しても常に上位ですが、改まった表現では謙譲として下位、尊敬として上位を用います。

テンスとアスペクト

テンスとしては**現在**、**過去**、**未来**を、アスペクトとしては**完了**、**開始**、**進行**、**反復**を区別します。開始は英語の **begin to V** にやや似ていますが、もう少し適用できる意味範囲が広がっています。反復は「習慣」とも言い換えられるでしょう。「私は週に1回ほど麻雀を打ちます」「当時私はこの学校に通っていました」などの内容を表すのに使います。なお、状態については開始から完了がひと続きであると見なし、反復のアスペクトは用いず、多くの場合進行か完了を用います。

相

相には**受動相**、**能動相**、**傍動相**があります。能動相に比べ受動相の方が無標な場合が多いです。傍動相とは主語が動詞と無関係に置かれる相で、 N_0 が主語でも N_1, \dots, N_k だけが動作に関連しているというものです。 N_0 は全く意味内容に関与していませんが、例えば N_0 を置くことで N_0 に対する敬語的表現になるなど、一応何らかの潜在的意図を込めて用いられます。

名詞と形容詞

(続きを書く)

曲用変化

名詞や形容詞の曲用はまず**独立形**、**接尾形**、**接頭形**、**分割形**、**被分割形**、**分割被分割形**、**被分割接尾形**、**被分割接頭形**に分かれます。接尾形は前に接頭辞などが付く場合、接頭形は後ろに接尾辞などが付く場合に用います。分割形は修飾語、被分割形は被修飾語に適用される形です。分割被分割形は修飾語且つ被修飾語である場合に、被分割接尾形と被分割接頭形は被修飾語に接頭辞や接尾辞が付く場合にそれぞれ用いられます。形容詞は基本的に分割形と分割被分割形のみですが、それ以外の語形では「～な物」という意味で名詞化されて用いられます。

これらのうち独立形と分割形は**主格**、**題格**、**副格**の格を持ちます。主格は主語や目的語などに用いる基本的な語形で、辞書の見出しにも主格が用いられます。題格は日本語の題目語にあたる格です。副格は種類の少ない動詞を副詞的に修飾し、日本語のサ行変格活用

動詞「～する」のように多様な意味を動詞に附加します。分割形の格は修飾語の格ではなく被修飾語の格を表すことに注意してください。

連体修飾構造

修飾語が分割形をとり、被修飾語の被分割形の上に割り込むことによって表されます。
(続きを書く)

様々な実例

例文 1 : vqà d-aptak nuNS. (私はヒトだ。)

例文 2 : vqà d-aptak nER. (私はヒトだ。)

vqà は基本前動詞の 1 人称受動相完了, nuNS は創出後動詞の 1 人称活性上位過去, nER は保持後動詞の 1 人称活性上位過去です。接頭辞 d- は「～として」, -aptak は名詞 pxtak (人) の独立接尾形です。vqàRK には日本語の「甲は乙だ」や英語の“A is B.”にあたる表現に直接的に対応する表現が存在せず、それらの意を伝達するには例文 1 のように「甲はかつて乙としてつくられた」とか例文 2 のように「甲は乙として (世界に) 保たれている」と表現します。後者は比較的改まった表現です。

例文 3 : veG d-oqo-sS-ob cRav. (彼は私の父だ。)

例文 4 : vqà d-oqo-sS-ob nuNS. (彼は私の父だ。)

例文 2 は相対人称, 例文 3 は一時的絶対人称で表現されています。veG は基本前動詞の 3 人称受動相完了, cRav は創出後動詞の 3 人称活性上位過去です。-oqo+ob は名詞 qòbo (父) の被分割接尾形, -sS- は名詞 sùSa (自分) の分割形で、連体修飾の入れ子構造です。ちなみに「祖父」という語はなく、qo-qb-ob (父の父) と表します。「私の祖父」は qo-qo-sS-ob-ob となります。

例文 5 : vqà d-oqo-sS-ob nuND ptva-To-sS-oFpqR-ak. (私の隣にいるのが父です。)

nuND は創出後動詞の 1 人称活性下位過去, ptva+ak は pxtak の分割形, -To+oFpqR- は ToFpqRa (隣) の分割被分割形です。動詞が下位になっているのは、発話対象者に対して身内である父を卑下しているためであり、これは日本語の敬語とよく似た**相対敬語**という仕組みをとっています (これに対し例えば韓国朝鮮語では**絶対敬語**が使われ、発話者より地位の高い人間は皆尊敬語の尊敬対象となります)。

例文 n : mwaR cna-qt-av d-unyuqxí bTaf. (こんにちは。)

vqàRK での挨拶です。挨拶にしてはなかなか長いですが、直訳は「私はあなたの無事を良いこととみなす」です。mwaR は派生前動詞の 1 人称能動相進行 (創出後動詞の活用にも同形 mwaR がありますがこれとは違います), cna+av は cnav (無事, 安寧) の被分割形, -qt- は qut (あなた) の分割形, -unyuqxí は nyuqxí (良い) の接尾形, bTaf は思考後動詞の 1 人称活性上位現在です。派生前動詞と思考後動詞の組み合わせはおおよそ「～を～と見なす」という意味をとります。(続きを書く)